

◎シンポジウム(要旨)

『鎌倉の歴史に学ぶもの』

●鎌倉の魅力について●

高木さん：近藤文化庁長官にお会いしたとき、「ドナルド・キーンさんからお話を聞いたら、鎌倉のプラスになるのでは」とおっしゃられたのがきっかけのシンポジウムです。

キーンさん：終戦直後に満月の大仏様を見てこれ以上のものではありません。それ以来、鎌倉には見るべきものがいろいろあることが分かりました。小さいお寺でも見るべきものがあります。美術、歴史、宗教から言っても世界遺産の町になる資格があります。

心配もあります。大勢の人が来ることで下品な雰囲気になったら、鎌倉でなくなります。

はじめて松島に行ったときには、見事な景色、島々は本当にきれいで、松の緑とか雰囲気が最高でした。しかし二度目に行ったときには看板や見世物などが目につく町になりました。大地震があって松島の人たちに同情しなければならないのですが、復興に当たって同じような町を作ってはいけないと思います。

鎌倉は規則がいろいろあって、高層ビルは建ててはいけないと聞いて嬉しかった。便利さのために道路を広くすとか、便利さのためにもっと早い電車にするとかには私は絶対反対です。便利さは美しさの一番の敵です。

佐藤さん：結婚して50数年、大仏様のおひざ元で過ごさせていただいています。大仏様がまず第一。朝5時に起きてまず大仏様にお参ります。結婚して新婚旅行に参り、国内二泊の旅行から帰っておみやげを母に見せました。その時母に「大仏様へのおみやげは」と聞かれました。私はそんなこと考えもしていませんでした。大仏様は造られてから750年以上たっておられますが、そんな長い歴史のほんの一部を私はお預かりしているのです。お預かりしている重さといいますか、その間に何かあっては本当に申し訳ないという思いで、毎日過ごしております。

富士川さん：19世紀英国のノーベル賞作家キップリングは、大仏の観察と印象を非常にいい文章で残しています。来日のちょっと前にアメリカの宣教師がやってきて、大仏の膝の上に乗ってそこでキリスト教の賛美歌のハレルヤを歌ったそうです。そして僧侶たちに向かって偶像崇拜の習慣が二度と生き返らないように、徹底的に大仏を破壊せよと説教しました。西欧化してしまった現代人は、宣教師の態度を非難できないところもあります。



富士川義之さん
(東京大学名誉教授・
鎌倉ベンクラブ理事)



佐藤美智子さん
(鎌倉ユネスコ協会会長・
高德院で大仏を守り続ける)



コーディネーターの
高木規矩郎さん
(推進協議会理事)

宗教文化のエッセンスから遠ざかった生活をしているのではないかとことを改めて反省させる材料として、キップリングの文章や詩をあげてみました。

●世界遺産について●

キーンさん：人が喜ぶとか便利になるとかの口実で、人々が拝むところだということを忘れてはいけません。世界遺産になったらどう風で鎌倉を守るか、安っぽくならないようにどうしたらいいか。意思があればできます。

佐藤さん：世界遺産というのは世界平和への理念です。世界遺産になろうがなるまいが、同じことだと思います。ならなくてもいいと思っています。鎌倉のことだけを考えないで、世界全体の文化財を保護していくという考えが大事です。

富士川さん：英語でアメニティーという言葉は快適さとか喜ばしさとか心地よい性質という意味ですが、アメニティーを破壊していくような無理な所業、たとえば世界遺産に登録するために不必要だから壊すとか、鎌倉の自然を破壊するようなことは絶対にしてほしくないです。

キーンさん：鎌倉に住んでおられる方々を大変うらやましく思っています。たいへんよいところで快適なところです。いつまでも今のような鎌倉が続くことを心から祈っております。